令和元年度　岐阜県外国人県民会議　概要

日　時：令和元年８月１１日（日）１３：３０～１５：３０
場　所：岐阜県図書館　研修室１，２
出席者：外国人県民会議委員　１１名
全国健康保険協会　岐阜支部　２名
（公財）岐阜県国際交流センター　１名
県外国人活躍・共生社会推進課　４名

＜主な意見の概要＞

○防災について

・　外国人は、防災を考える意識が欠如している。警報が出ても意識しないことが多い。まずは、防災意識を高めることが必要。例えば、入国時の在留カード登録時に防災の話をしてはどうか。また１回では意識は高まらないので、技能実習生に対しては、防災講座を複数回行うと防災の意識や知識が高まるのではないか。

・　防災啓発講座は、実演があると良いと思う。例えば、災害時の持ち出しグッズを実際にバックに詰めてみる、地震体験車で揺れを体験してみるなど。

・　大人だけでなく、外国人の子どもにも行政が防災意識を高める講座を行うと有効ではないか。

・　岐阜県の外国人防災リーダー育成講座は可茂地区で開催すると、参加者が増えるのではないか。また、大人の方が防災への関心は低いので、子供やその保護者を対象に小中学校で実施したらどうか。お母さんは自分の子どもを守りたいので、関心は持ちやすいと思う。

・　技能実習生は、仕事以外で人とのつながりがなく、アプローチも難しい。雇用する企業にも協力いただき、防災意識を本人に持ってもらえるようにして

はどうか。また、外国人防災リーダーが企業へ啓発に行く際は、自治体がその橋渡しをすると良いでのはないか。

- 外国人の中には、日本語が分からないが、外国人コミュニティで力があるキーパーソンもいる。例えば、日本語が分かる外国人と、外国人キーパーソンがペアで防災に取り組むことも有効ではないか。
- 家族単位で防災の意識づくりの取り組みをしてはどうか。親が日本語に不慣れでも、子供が日本語が分かれば、子供を通じて情報を入手することができる。 親にも家族を守りたい意識はある。家族であれば、防災の場にも参加しやすい。
- 自分はフィリピンにルーツがあるが、外国人コミュニティには、必ずインフルエンサーがいると思う。何か広めようと思うと、まずインフルエンサーに参加してもらい、その人から他の人に広めてもらうのが、有効な手段だと考える。
- 滋賀県の草津市には外国人だけの消防団があり、市長が直接任命していると聞いた。そうした取組みがあると、防災意識が持ちやすいのではないか。
- 自分はブラジル出身だが、ほとんどの防災訓練や啓発講座は日本語で開催されている。自分の命を守るための内容は、母語だったり、通訳を挟んでやっても良いのではないか。母語での動画でも良いと思う。
- 防災へのイメージは固いので、例えば、短編の漫画やアニメで防災啓発のペーパーを作成するのも手段だと思う。
- 自分は来日して 30 年になる。宮城や福島で震災が起きた時は、ボランティアとして支援にみんなで行った。地域のボランティア活動にも参加しているが、自分が住む自治体の防災訓練は聞いたことがなく、参加したことがない。
- 防災は、自分の命を守るという大きなイメージはあっても、防災訓練や講座は面白くない。参加したことがある人も、何度も参加しようという気になりにくい。関心を持ってもらえるように、文字ではなく写真やイラストを多く使った伝え方をしたり、体験型にするなどの工夫が必要だと思う。

・ ブラジルコミュニティに対して自分が感じているのは、パンフレットやチラシを見て参加することはないということ。知り合い等から誘われて行くことが多いので、参加を呼び掛けるチラシなどを作っても、あまり効果がない。地域の外国人キーパーソンから広めてもらうのが有効。

・ フィリピンコミュニティのライフスタイルからいうと、平日は基本的に派遣で働いている人がたくさんいて、日曜日は、キリスト教徒が多いので教会に行く。空いているのは、土曜日くらいしかないが、フィリピン人は家族の絆を大切にするので、家族団らんに使っている。その中で１日、防災のために使うのは、本音としては無理だと思ってしまう。なるべく短く、できれば２時間くらいにすると良いと思う。SNS などの動画媒体は拡散されやすい。そういうところから関心を高めていく手法は効果的だと思う。

・ 自分は赤十字のボランティアにも登録しており、その赤十字の防災研修が興味深い。参考にするとよいと思う。

〇社会保障について

・ 社会保険について、派遣労働者は、派遣元が手続きをやってくれないというケースをよく聞く。

・ 自分の周りの中国人は、10 年前に比べて多くの人が加入していると感じている。しかし、派遣労働者は何とも言えない。出稼ぎだけで来る人は、そうした制度を知ろうともしない。日本語を勉強する自助努力が足りない。行政がお金をかけて、外国人へ知らせようとしても、本人に意識がない限りはあまり意味がないと考える。また、本人の意識以上に、派遣労働者を雇用している会社にも問題がある。加入させないような会社には、法的措置を取らなければ改善できないと考える。

・ 働き先で、社会保険に加入すると言われたが、詳しい説明はなかった。社会保険の話は親から聞く程度の話しか知らないし、正直、今でも分かっていないことが少なくない。企業は、きちんとした説明が必要ではないか。

・ 労災で中国人が亡くなった際に遺族年金について問い合わせをしたら「外国

人は関係ない」とはっきり言われた。そうだとすると社会保険に加入する意味はなんなのか。保険料の徴収には力を入れているのに、支給となるときちんとした説明をしてくれない。加入することが義務であれば支払うことも義務ではないか。

・ ここ数年、言葉の通じない外国人が病院に行くときになかなか診察してもらえないという話をかなり聞くようになった。たまに、自分に電話がかかってきて、遠隔で通訳したりするが、追い払われるケースも増えているように感じる。福祉の一つとしてどうするのか。病院にも行けないのに、こうした保険に加入しても意味がない。言葉が通じない外国人を拒否する病院を何とかしないといけない。

・ 協会けんぽ以外にも市役所の国民健康保険があり、そもそも健康保険の他にも、労災や年金といった社会保険がある。窓口がばらばらなのでどこに問い合わせればいいのかわかりにくい。

・ 給与明細でみると多くのお金が引かれているので、周りの外国人からこれは何かと聞かれることがある。こういう天引きについても最初に説明してもらえると良いと思う。

・

〇教育について

・ ブラジルコミュニティの話だが、派遣や工場で働く人が多い。その子どもは日本の小中高を卒業して将来何になりたいかと聞くと、派遣会社や電話会社の通訳という。外国人の子どもにもっと将来の選択肢があることを伝えても良いのではないか。

・ 夢を持つために、お金の面が一つハードルになっていると感じる。将来就きたい職業に就くには、ある免許が必要、それを取るためには大学への進学が必要となったときに、お金の問題が高いハードルになる。

・ 今、日本人労働者と外国人労働者の収入の差はあまりないように感じている。大きな差としては、親が夢を持っているかどうか。また、短期間でお金を稼いで帰るという意識が大きく影響しているのではないか。

・　日本語が上手くできないから、選択肢が狭まるという一面もある。本人の努力を促すためにも、外国人の子どものためにインターンシップ等で、色々な職業を知ること、日本の文化を知ることはとても良いことだと思う。

・

〇その他

・　自動車運転免許がないことで、行動範囲や職業選択が狭まっているという話も聞く。免許取得時の対応言語は、現在ポルトガル語、英語があるが、ベトナム語やタミル語も増やしてほしい。